

新規事業採択時評価結果（令和5年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：長谷川 朋弘

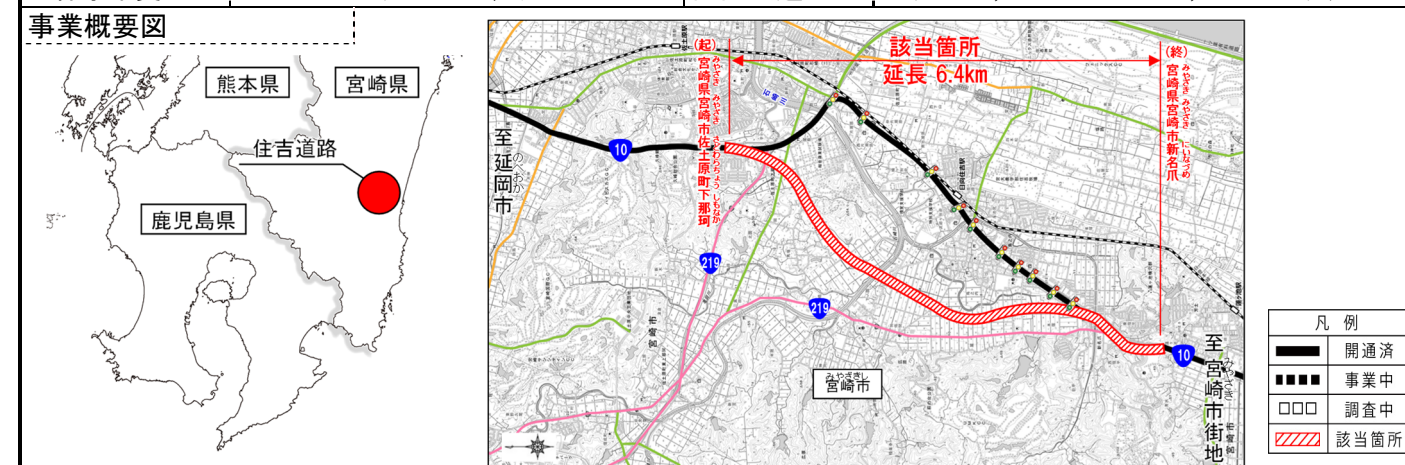
事業の概要

事業名	一般国道10号 住吉道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 九州地方整備局
起終点	宮崎県宮崎市佐土原町下那珂～宮崎県宮崎市新名爪	延長	6.4 km		

事業概要
一般国道10号は、北九州市～大分市～宮崎市～鹿児島市などを結び、沿線の物流・交流を支える重要な幹線道路である。このうち、対象区間の現道は、宮崎市北部に位置し、佐土原バイパスと宮崎北バイパスに挟まれた2車線区間である。

事業の目的、必要性
当該事業の整備により国道10号の交通混雑緩和を図るとともに、災害時における信頼性の高いネットワークを形成する。また、速達性・定時性の向上を図り、救急医療活動や物流効率化による産業活動を支援するものである。

全体事業費	約490億円	計画交通量	約19,200～29,200台/日
-------	--------	-------	-------------------



関係する地方公共団体等の意見

【宮崎県知事】
新規事業採択時評価に係る「一般国道10号住吉道路」事業の予算化について同意いたします。
当該道路は、宮崎市北部地域と中心市街地を結ぶ基幹軸であり、慢性的な渋滞の緩和や交通事故の低減はもとより、災害時や救急医療における安定的な輸送の確保、また、物流効率化による産業支援や観光振興を図る上で大変重要な道路です。
本県としましては、事業が円滑に推進されるよう、埋蔵文化財調査の体制確保や付け替え道路（横断ボックス等）の集約、用地取得、関係者（河川管理者、営農者等）協議等の地元調整に宮崎市と協力して取り組むとともに、早期の供用に向け、工事実施に必要な盛土材の確保について、周辺自治体と連携し協力いたします。
また、関係する道路管理者と旧道移管に係る調整を進めるとともに、事業効果が最大限に発揮されるよう、アクセス道路となる市道次郎ヶ浜別府広原線の整備推進を宮崎市へ働きかけてまいります。
つきましては、令和5年度新規事業としての予算化に特段の配慮をお願いいたします。

学識経験者等の第三者委員会の意見

- ・新規事業化は妥当である。

事業採択の前提条件

- ・費用対便益：便益が費用を上回っている。
- ・手続きの完了：計画段階評価手続き完了（令和2年2月）、環境影響評価手続き完了（令和5年1月）、都市計画決定手続き完了（令和4年12月）

事業評価結果

費用便益分析	B/C	1.3	総費用	370億円 (事業費：339億円 維持管理費：31億円)	総便益	463億円 (走行時間短縮便益：395億円 走行経費減少便益：54億円 交通事故減少便益：15億円)	基準年	令和4年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.1 (交通量 -10%)	B/C=1.5 (交通量 +10%)					
		事業費変動	B/C=1.1 (事業費変動 +10%)	B/C=1.4 (事業費変動 -10%)					
		事業期間変動	B/C=1.1 (事業期間変動 +20%)	B/C=1.4 (事業期間変動 -20%)					
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価	根拠						
	渋滞対策	◎	・現道からバイパスへの交通転換により、国道10号現道部の混雑緩和 〔国道10号(現道部)の混雑度〕【現況】1.44→【整備後】0.70						
	事故対策	◎	・現道からバイパスへの交通転換により、国道10号現道部の事故危険区間の回避 〔通過する事故危険区間〕【現況】18箇所→【整備後】0箇所						
	歩行空間	-	・注目すべき影響はない。						
	社会全体への影響	住民生活	◎	・第三次救急医療施設までの搬送時間短縮による救急搬送患者の負担軽減、救急医療活動の支援 〔北部救急小隊～第三次救急医療施設の所要時間〕 【現況】38分 → 【整備後】27分 (11分短縮) 最寄り高速ICまでの所要時間短縮による物流の効率化、産業活動の活性化 〔(株)ホンダロック宮崎工場～宮崎西ICの所要時間〕 【現況】57分 → 【整備後】42分 (15分短縮)					
		地域経済	-	・注目すべき影響はない。					
		災害	◎	・緊急避難時に緊急輸送道路や緊急交通路として信頼性の高い道路ネットワークを構築 〔一ツ葉有料道路が浸水途絶した場合の避難路の拡充〕 【現況】2車線 → 【整備後】6車線					
		環境	-	・注目すべき影響はない。					
	地域社会	-	・注目すべき影響はない。						
	事業実施環境	○	・計画段階評価手続き完了（令和2年2月）、環境影響評価手続き完了（令和5年1月）、都市計画決定手続き完了（令和4年12月） ・国道10号住吉佐土原間バイパス新設促進期成同盟会、宮崎県知事、宮崎県議会議長、宮崎市長などから早期事業着手の要望を受けている。						

採択の理由

費用便益比が1.3と便益が費用を上回っており、また、計画段階評価、環境影響評価、都市計画決定の手続きを完了しており、事業採択の前提条件が確認できる。
住吉道路の開通により、国道10号の交通混雑緩和を図るとともに、災害時における信頼性の高いネットワークが形成される。また、速達性・定時性の向上を図り、救急医療活動や物流効率化による産業活動を支援するなど、事業の必要性・効果は高いと判断される。
以上により、本事業は令和5年度新規事業箇所として妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。